

日本天文学会春季年会記事

本会の春季年会は5月13日から15日まで、東京上野公園内、国立科学博物館講堂で開かれた。今回は最近2～3年間に比べて研究発表は74で少なく、会場を2会場に分ける必要はなかった。下記のような研究発表のほか、14日午後後半には佐藤友三氏を司会者とする“改訂される天文基本常数に関するパネル・ディスカッション”，15日午後後半には齊藤国治氏による“コロナ・コンデンセーションの解析”なる題のシンポジウムがおこなわれた。

講演の部門別の数、および座長は次のようである。

	部門別	講演数	座長
第1日午前	太陽系	7	一柳
	天体物理学(太陽)	7	川口
第1日午後	電波天文学	6	野村
	相対論, 天体力学	7	
	位置天文学	4	秋山
第2日午前	位置天文学	13	中野, 池田
	恒星系天文学	5	鏑木
第3日午前	天体物理学(恒星)	2	
	天体物理学(恒星)	11	
午後	天体物理学(恒星)	2	
午後	天体物理学(恒星)	10	高窪, 一柳

14日正午より総会が開かれた。出席者150名。議長は一柳理事長、冒頭に、前年度なくなられた、前山、畑中両理事に対する黙禱を行なった。ついで松波理事による昭和38年度会務報告、北村理事による昭和38年度会計報告、39年度予算案が報告され、原案通り可決された。

つぎに前山、畑中理事の後任として末元、牧田、寿岳氏が任命され、新名誉会員が決定された。神田評議員の名誉会員就任にともなう評議員後任として鳥村福太郎氏が評議員に任命され、また評議員A組の半数改選の人事も決定した。会務および会計報告新役員は次の通りである。(敬称略)

◇新名誉会員

荒木俊馬, 池田徹郎, 神田 茂, 萩原雄祐
神田茂評議員の後任として鳥村福太郎が就任された。

◇評議員(昭和39年—43年の組)(○印重任)

上野季夫, 大沢清輝, ○鏑木政岐, 佐藤友三, 末元善三郎, 高木重次, 田中春夫, 坪川家恒, ○中野三郎, ○野附誠夫, 林忠四郎, ○一柳寿一, ○広瀬秀雄, ○藤波重次, ○藪内清

昭和38年度会務報告

昭和38年度は本会創立56年度、社団法人設立後30年

にあたる。

本年度に行った事業

(イ) 出版 (1) 欧文研究報告 Publications of the Astronomical Society of Japan

第15巻第2号 149頁 昭和38年6月発行

第15巻第3号 101頁 昭和38年8月発行

第15巻第4号 212頁 昭和38年12月発行

第16巻第1号 68頁 昭和39年3月発行

(2) 天文月報 第56巻第5号—第57巻第4号を毎月発行

(ロ) 年会 (1) 春季年会 昭和38年5月16, 17, 18日
東京大学医学部中央総合館において講演99, シンポジウム2(石田蕙一; 小宇宙の2, 3の問題, 寿岳潤; 星の進化)

(2) 秋季年会 昭和38年10月11, 12日

東北大学金属材料研究所において

講演63

(ハ) 東京天文台公開の後援 昭和38年10月26日(土)午後3時～8時 台内設備および資料の公開を後援した

総会および評議員会

(イ) 総会 昭和38年5月17日(金) 東京大学医学部中央総合館において 出席者 約110名

議長 藤田理長事

議題 ① 昭和37年度会務, 会計報告

② 昭和38年度予算案

③ 次期理事長および副理事長選出, および理事の指名

④ 欧文研究報告編集委員の依嘱

⑤ 大塚奨学金選考委員の改選

⑥ 天体発見賞の授与

(ロ) 評議員会 (1) 昭和38年4月26日(金) 学士会館本郷分館において

議長 鏑木政岐氏

議題 ① 昭和37年度会務, 会計報告

② 昭和38年度予算案

③ 天体発見賞の件

(2) 昭和38年5月16日(木) 学士会館本郷分館において

議長 宮地政司氏

議題 ① 総会上程議案の確認

(3) 昭和38年12月17日(火) 神田学士会館において

議長 宮地政司氏

議題 ① 欧文研究報告の定価改定

② 欧文研究報告別刷料の改正

- ③ 文部省 科学研究費等分科審議会委員候補者推薦の報告
- ④ 理事の補充の件
- ⑤ 大塚奨学金選考の報告
- ⑥ 前年度までの会費滞納による赤字の件

その他の主な会務

- (イ) 昭和38年5月 総会席上 本田実氏、池谷薫氏にそれぞれ天体発見賞を贈呈した。
- (ロ) 昭和38年度より 特別会員の会費を年 1,800 円に、通常会員の会費を年 600 円に改定した。
- (ハ) 昭和38年9月 昭和38年度研究成果刊行補助金として文部省より 本会欧文研究報告に対して 200,000 円が交付された。
- (ニ) 昭和38年10月 大塚奨学金60,000円を本会会員林

耕輔氏に贈呈することに決定した。

- (ホ) 昭和38年11月 日本学術会議の依頼により文部省 科学研究費等分科審議会委員の候補者として 藤田良雄、虎尾正久両氏を推薦した。

会員数および役員等

(イ) 会員数 名誉会員 3 (3) 特別会員 257(252)
 通常会員1,243 (1,038) 賛助会員 12(12)
 ただし通常会員数は外国会員1名を、また特別会員数は終身会員10名および外国会員7名を含む。

() 内は昨年度の数

(ロ) 役員の変動

編集理事 前山仁郎氏は昭和38年8月9日に、また編集理事 畑中武夫氏は昭和38年11月10日に死去された。

昭和38年度会計報告(決算書)

単位円

収 入		摘 要	支 出		摘 要
会 費	938,438	外国会員8名を含む	欧文報告調製費	1,279,925	
(内前年度までの分)	98,630		天文月報調製費	982,450	
賛助会費	90,000	6社9口	諸印刷物調製費	485,674	欧文別刷, 予稿集, その他
欧文報告販売	595,246	うちバック	送料通信費	259,945	
欧文報告委託出版	330,000	ナンバー	定 会 費	44,669	
天文月報販売	92,424	280,000	謝 金	106,206	(月報原稿料)を含む
諸印刷物販売	499,150	総合研究より	交 通 費	44,560	
利 子	81,784	Page Charge 450,000 を含む	物 品 費	74,538	石油ストーブ, 印刷器等
印 税	168,700	うち大塚資金利子 75,000	雑 費	107,935	天体発見賞, 花輪代
刊行補助金	200,000	文部省より	人 件 費	140,200	
雑 取 入	294,213				
小 計	3,289,955		小 計	3,526,102	
前年度よりの繰越	324,644		次年度への繰越し	88,497	うち大塚資金利子75,000
合 計	3,614,599		合 計	3,614,599	

雑 報

火星大気中の水蒸気 火星の極冠が薄い水の霜であることは、1952年にカイパーにより赤外スペクトルによって発見され、ドルフュスは1961年に偏光観測からこれを確認した。しかし火星大気中の水蒸気を検出する試みは今まで成功していなかった。

最近、L.D.カプラン、G.ミュンチ、H.スピンラッドは、ウイルソン山の100インチ鏡のクーデ分光器に114インチカメラを付けて8000A 台の赤外域で、火星面からの光のスペクトルを撮影し、8300A の付近で水蒸気、8700A の近くで炭酸ガスの線を観測することに成功した。撮影は1963年4月12日から13日にか

て270分の露出により行なわれたものである。

観測された線の等価幅から火星面上のこれ等の大気量を計算してみると、絶対温度230°Kを仮定して、炭酸ガスは55±20 m atm (つまり火星面で炭酸ガスを230°K, 1気圧にすると55±20 m の高さの層となる意味) 水蒸気はわずかに14±7 μ atm となった。また酸素分子については、存在しても70 cm atm より少ないことがわかった。

気圧については、カイパー及びシントンの2μの赤外域の観測も参考にして、火星表面で25±15 ミリバールときめた。炭酸ガスの圧力は4ミリバール程度なので、何かほかの気体でのこりの21 ミリバールの気圧を説明しなくてはならない。そこで地球大気の組成も考慮してA⁴⁰とN₂とを考えてみる。A⁴⁰はK⁴⁰より生ずるが、